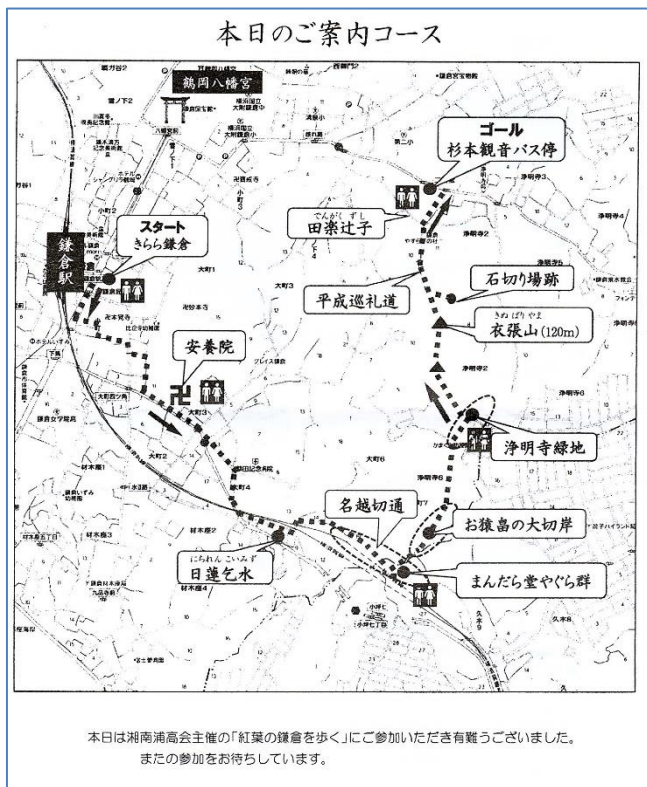


紅葉の鎌倉、鎌倉駅～名越の旅！

●湘南浦高会の皆様、坂本様にお世話になって！

昨12月2日(日)は、湘南浦高会(平井隆一会長、21回)主催の日帰りハイキング「紅葉の鎌倉を歩く」でした。湘南浦高会では今年が4回目の「鎌倉の旅」だったようですが、他の地域職域同窓会にもお声かけいただき、同窓会本部の藤野事務局長(22回)、麗和ゴルフ会から1名、そして春日部地区浦高会からも鳥井副会長(11回)、小澤様(11回)、香田(25回)の3名が出席させていただき、総勢16名での散策となりました。NPO法人鎌倉ガイド協会の坂本哲夫様(17回)のご案内や資料を基にして綴ってまいります。

＜ハイキング概要＞



◆コース：鎌倉駅東口→安養院→日蓮乞水→名越切通→まんだら堂やぐら群→お猿富の大切岸→浄明寺緑地(昼食)→衣張山→石切り場跡→平成巡礼道→田楽辻子→杉本観音バス停→バス乗車→鎌倉駅東口(高低差あり、徒歩距離約6km)



私たちは春日部駅7時34分発の大宮行きに乗り、大宮駅で8時1分発の東海道線直通熱海行き、戸塚駅での横須賀線に乗り換えて、9時30分に鎌倉駅に到着しました。〔写真は関東の駅百選でもある鎌倉駅の東口〕

◆きらら鎌倉をスタート

10時駅前に全員が集合してスタート。若宮大路を渡り、鎌倉生涯学習センター(きらら鎌倉)にてNPO法人鎌倉ガイド協会の坂本様と今泉様からコースの説明などを伺いました。



写真左から平井会長、坂本様、今泉様

坂本様から、「鎌倉七切通の一つ、名越切通を上ると、そこには荘厳な中世の遺構『まんだら堂やぐら群』があらわれ、訪れる者を静かに圧倒します。大切岸を経て衣張山の頂に着けば、遠く富士を望む雄大な眺望が開けます。そして森閑とした平成巡礼道をゆるりと下って、田楽辻子の道へ……。中世の貴重な遺構を訪ねながら、爽やかな初冬の鎌倉散策を心ゆくまで満喫してください」(資料より引用)

鎌倉の由来を2つご紹介。「地形的なものとして、鎌は『かまど』で、倉は『谷』のことだといわれています。鎌倉の地形は、東・西・北の三方が山で、南が海になっていて形が『かまど』のようで、『倉』のように一方が開いているので、『鎌倉』となったといわれています。もう一つは伝説的なもので、藤原鎌足が、神宮にお参りする途中、由井里(ゆいのみさと：今の由比ガ浜)に泊まったところ、不思議な夢をみて、いつも持っていた鎌槍(かまやり)を、大蔵の松ヶ岡に埋めました。そこから『鎌倉』になったといわれています。他にも諸説あります」

10時10分、いよいよスタートです。若宮大路を南下します。「若宮大路は、源頼朝が京都・平安京の朱雀大路を参考にして、鎌倉の都づくりの第一歩と、妻・政子の安産祈願のために造らせたものです。ここを通れるのは身分の高い人たちで、庶民は周囲の路地を歩いてたため辻説法が路地で行われ、寺が路地に面して多いのも鎌倉の特長です」・なるほど。

鎌倉野菜が毎朝揃うと言われる「鎌倉市農協連即売所(通称：レンバイ)」を左に折れ路地を歩きます。小さいながらも水質の綺麗な河川を渡ります。「この川は『滑川』と言います。鎌倉時代の物流は陸路のものではなく、海運や舟運がほとんどでした。この『滑川』も当時はもっと広く深かったものと思われます。この辺りは『大町』と言います。新編相模国風土記稿には『鎌倉繁盛の頃は此辺悉買区にして大町の名は居住の商売が多少をもて夷堂橋を境とし、以北を小町と唱え以南を大町と称す、その中央の通衛を大町大路と呼び、其の他米町・辻・名越・魚町・武蔵大路等の町名あり』と述べています」とのこと。

◆路地にもたくさんの見所が

小町大路で「ぼたもち寺」に突き当たりました。



◆常栄時（じょうえいじ、通称：ぼたもち寺）：日蓮宗寺院。山号は慧雲山。鎌倉時代からあった草庵を慶長11年（1606年）に日祐尼が開基し、日詔上人が開山した。本尊は三宝祖師。文禄8年（1271年）の龍ノ口法難の折り、処刑のため刑場に引かれて行く日蓮に胡麻ぼたもちを捧げた、という伝承がある。この後に日蓮は刑を免れたことから「御首継ぎに胡麻の餅」として有名になり、牡丹餅寺の名で知られる。

続いて「八雲神社」の前を通ります。「鎌倉には神社や寺院が150あると言われていまして、一つひとつをご紹介していたのでは時間が足りませんので割愛します」と坂本さんからお断りがありました。



◆八雲神社（やぐもじんじや）：もと鎌倉祇園社や祇園天王社などと称したが、明治維新に際して現社名に改称した。厄除け開運の神社としても知られており、地元では「八雲さん」や「お天王さん」などと呼ばれ親しまれている。

大町大路を歩いて最初の目的地である北条政子ゆかりの寺院「安養院」に到着しました。



安養院（あんよういん）：安養院は浄土宗の寺。祇園山安養院田代寺。創建が嘉禄元年（1225）、開基が北条政子。開山が良弁尊観。本尊が阿弥陀如来。安養院の歴史は三つの寺院が絡み、やや複雑である。北条政子は亡き夫・源頼朝の菩提寺として笹目に「長楽寺」を建立するが戦火で焼失。一方、現在の地には光明寺の開山・然阿良

忠の弟子である良弁尊観の「善導寺」があったが、これも焼失し、そのため両寺を併合して「安養院」として再興された。安養院とは北条政子の法名。しかし、江戸時代の延宝8年（1680）に再び火災にあ

い、源頼朝に仕えた田代信綱が創建して比企ヶ谷にあった「田代寺」の観音堂を移して再建された。本堂には本尊阿弥陀如来像と千手観音像と北条政子像が安置されている。鎌倉時代には墓に遺体を埋めるということが行われていないため、政子の墓（やぐら）は「寿福寺」にもある。北条政子本堂の裏手には二基の宝篋印塔（ほうきょういんとう、墓塔・供養塔の一種）があり、写真右が尊観の墓といわれ、「徳治3年（1308）」鎌倉最古とされる銘がある。左は政子の供養塔。



安養印を出て暫く歩くと、山門の中に紅葉が映える「安国論寺」にぶつかります。

◆安国論寺（あんこくろんじ）

：神奈川県鎌倉市大町（名越）にある日蓮宗の寺院。山号は妙法華山。日蓮が鎌倉で布教するに際して拠点とした松葉ヶ谷草庵の跡とされ、松葉ヶ谷霊跡安国論寺とも言う。開山は日蓮とするが、弟子の日朗が文應元年（1260年）に、日蓮が前執権北条時頼に建白した「立正安国論」を執筆した岩穴（法窟）の側に安国論窟寺を建てたのが始まりである。



「安国論寺」から大町大路に戻り、横須賀線の名越踏切を渡り左手に歩いていくと「日蓮乞水」が道路の脇に見えてきました。

日蓮乞水（にちれんこいみず）

：安房から鎌倉に入った日蓮が水を求めて持っていた杖を地面に突き刺すと清水が湧き出したとされる。『新編鎌倉志』には、「日蓮乞水は名越切通に達する路傍の小さな井戸を云う 昔日蓮が房総より鎌倉に来る時 此処にて清水を求めしに俄かに湧出せしとなり 大旱にも涸れる事なしとぞ 鎌倉五名水の一なりと云う」と記されている。石碑には、「南無妙法蓮華経日蓮水」と刻まれている。



さて再度、横須賀線の踏切を渡ると、いよいよ山路に入っていきます。横須賀線の上にはみ出している小道を歩み、シダの繁茂する小道を歩むとやがて「名越切通」です。《つづく》